

令和2年度 第2回活性化協議会 (R3. 3. 24) の主な意見と対応方針

主な意見	対応方針
住民アンケート調査結果について	
アンケート結果を踏まえた意見	
送迎で移動している人の公共交通への転換が課題	施策⑩[地域一体で取り組む組織的・継続的な利用促進運動、公共交通利用促進イベント等の実施]の中で、公共交通への転換を図る(概要P1、本編P98)
バスの改善点として運行本数の増便などを挙げる人が多いが、リアルタイムで配車ができれば、改善が見込めるのではないかと	施策⑩[ICTを活用した運行管理・配車システムの導入]に反映(概要P1、2、本編P71)
小型車両で、運転手が乗降をサポートするような交通手段が有効ではないかと	施策⑬[鉄軌道車両、バス車両、タクシー車両のバリアフリー化]に反映(概要P1、本編P74)
地域支え合い型交通で安全面への不安と意見があるが、「やぶくる」のように事業者と市民ドライバーが協力することなどで対応できるのではないかと	施策⑥[住民等が主体となった地域交通確保の取り組みへの支援]、施策⑳[地域交通を担う団体向け講習会の開催]に反映(概要P1、本編P64、97)
「広域的な交流を支える」という方針であれば、地域の移動特性を踏まえた内容を計画に反映するべき	アンケート結果を踏まえ、施策①[生活圏に合わせたバスの運行]に反映(概要P1、2、本編P53)
詳細分析について	
「公共交通が不便だ」と回答した人の特性	「公共交通が不便だ」と回答した人が多い地域は、バスの乗り継ぎが必要であることや曜日によって運行区間が異なるなど、バス路線が複雑になっている(資料編P76、77)
バス停までの距離とバス利用の関係	バス停徒歩圏に近いほどバス利用者数は多いが、バス利用割合は低い(近くてもバスを利用していない人が多い)(資料編P96)
計画素案の概要について	
基本的な方針	
地域の目指すべき姿について再考	意見を踏まえ、事務局案として目指すべき姿を設定(概要P1、本編P48)
目標	
目標を明確にし、指標との関連性を意識して設定	意見を踏まえ、目標及び指標を設定(概要P1、本編P50、102-104)
公共交通利用者が減少する中、指標において収支率や利用者数の数値だけでなく、広い視点で指標設定してほしい	各目標の視点から複数の指標を設定(概要P1、本編P102-104)
但馬地域の特性を考慮し、市町のコミュニティバスで補助ステップ付き車両を導入していることを踏まえ、指標に補助ステップの導入率を加えてはどうか	指標にノンステップバスの導入率に加え補助ステップバスを含めた「ワンステップバス等の導入率」を設定(概要P1、本編P103)
目標達成のための施策	
他分野連携など先進的な取り組みを行ったほうがよい	基本施策3[多様な手段を用いた公共交通の運営]に反映(概要P1、2、本編P67-71)
指標や施策など鉄道に関しても計画に含めてはどうか	指標に「特急停車駅の乗降客数」を設定(概要P1、本編P103) 施策⑲[鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施]等を追加(概要P1、2、本編P99)
バス運転手の確保が喫緊の課題であるため、具体的な施策としてほしい	施策⑳[バス運転手・タクシー運転手確保に向けたPR活動の実施]に反映(概要P1、2、本編P96)
公共交通サービスが必要な人に、サービスを提供できるよう計画に位置付けてほしい	基本施策2[地域の実情に合わせた交通手段の導入]、基本施策3[多様な手段を用いた公共交通の運営]の中で、それぞれの地域に対応できるよう施策を設定(概要P1、本編P62-71)
公共交通空白地が課題であり、自家用有償旅客運送などが考えられるが、運転手の確保や制度づくり、既存の事業者との共存体制などの検討が必要	施策⑥[住民等が主体となった地域交通確保の取り組みへの支援]、施策⑳[地域交通を担う団体向け講習会の開催]で対応できるよう設定(概要P1、本編P64、97)